

OWNプランの研究

生徒が「自分で作る時間割」

宮本乙女・佐々木善子・福田正恒

目 次

I はじめに	105
II 本校のOWNプランとは	106
1. OWNプランの目的	106
2. OWNプランの実際…平成12年度実践より	106
III OWNプランの課題と支援, 評価のあり方についての検討	115
1. 実践した学習課題の分析	115
2. OWNプランにおける支援と評価	116
IV 平成12年度3学期OWNプランの評価	122
1. OWNの満足度	122
2. 自分にとって「意味ある学び」であったか	122
3. OWNプランの課題に対する評価	123
V おわりに…新しい選択の在り方を求めて	125

I はじめに

本稿は、1998年より文部省の研究開発指定を受けて進めてきた「児童生徒が自分にとって「意味ある学び」を創出する教育課程の開発」の研究内容の中から、特に、中学校の履修方法の改善として取り組んできたOWNプランについて、その成果と課題について記録したものである。内容は、開発4年目の成果発表会である10月の公開研究協議会における発表より一部抜粋したものと、新しく2001年1月に3学年合同で実施したOWNプランにおける各教科の課題内容と生徒の評価を分析した結果をまとめたものである。

OWNプランは、「生徒が自分で自分の時間割をつくる」という試みである。生徒が自分にとって、「意味ある学び」の場や、機会、教育内容を選択できるようにという意図で、開発してきた。

II 本校のOWNプランとは

1. OWNプランの目的

学校が、文化の伝承の場であるとともに、子ども自身による知の創造の場になっていくために、これまで以上に、一人一人が「自ら進んで、学ぶ内容や方法を見つけたり、見通しを立てて自らの学びをプログラムできる」ように変えていく必要がある。「OWNプラン」は、教科領域の学習において内容・時数・履修計画の面にまで選択の幅を拡大しようとする試みとしてスタートした。

「一定の期間（OWN期間）の中で、各教科の学習内容の一部を、各自の履修計画にそって規定時数以上をかけて」履修していくことを指している。ある一定期間の履修計画（時間割作り）を生徒たちに任せていく中で、

- ・学びへの主体的な姿勢を育むこと。
- ・教科の中で一人一人が培っていくべき基礎的・基本的な力を、確実に身につけていくこと。
- ・選択課題や発展的な課題、あるいは基礎に立ち戻った学習など、学年の枠組みの緩和も含めて、生徒一人一人が自分で判断して選択できる幅を広げること。

をねらったものである。

このネーミングの主旨は次の通りである。

「自分自身の」「独自の」の意味の「OWN」に、次の内容を含む。

O : open W : what when where whom N : need

すなわち「自分自身の必要によって、学びの内容、場、時・順序、仲間などを、自分で考えて設定できる」プラン。

2. OWNプランの実際…平成12年度実践より

OWNプランは、ガイダンスで示された学習内容・課題について、生徒が自分の時間割を組んで進めていく。実際には次のように実施する。

(1) 3年間の実施時期と重点目標

平成10年度のOWNプランの自己評価により、学年発達に応じて、生徒自身が自主的・自立的にOWNプランを活用できるようになることが明らかになった。平成11年度、12年度は、この評価を生かして、3年間の重点目標と実施時期を表1のように設定し、実践を深めた。

表1 実施時期と重点目標

			重 点 目 標
5月	2年	1週間	○自分の必要度や関心に応じて課題を選択することができる ・ガイダンスを聞き、自分の興味や関心、必要度に応じて課題内容や履修時間を選択できる ・見通しを持って学習を進め、計画的に時間割を作成する意識を高める
6月	3年	2週間	○自らの判断によって課題を選択し、自主的に時間割を作成することができる ・課題の内容や自分のペースを考えながら課題を選択できる ・自分自身の力で時間割を作成できる
10月	1年	1週間	○自分自身でOWNの時間割を組むことに慣れる ・標準時間数も考えながら、自分で教科を選択するという意識を持つ ・ガイダンスを聞き、各教科の学習内容を理解し、見通しを立てて学習に取り組める
1月 全年 一 斉	1年	1週間	○学習の見通しを持って、計画的に進めることができる ・10月の経験を生かし、さらに効果的に教科を選択することができる ・自分なりのペースで計画的に学習を進めることができる
	2年	2週間	○選択幅の拡大や学年枠組みの弾力化に応じて学習を進めることができる ・選択課題を増やすことで、自分の興味・関心や必要度に応じた選択ができる ・異学年との交流を通して、様々な考え方を共有したり協力したりする態度を身につける
	3年	2週間	○選択幅の拡大や学年枠組みの弾力化に応じて学習を深めることができる ・これまでのOWNプランの経験を生かして、自分にふさわしい時間割を作成し、学習の深化を図ることができる

(2) 学習内容および課題

課題は、全員が必ず履修する「必修」と、履修が自由である「選択」の2通りがある。

「必修」の課題については、それを仕上げるために標準的にかかるだろうと考えられる時数が示される。たとえば、表2の1年生国語「21世紀を生きる自分宛に手紙を書こう」という課題作文は、「S2～」と示されており、これは、全員が、最低S(40分)2時間は履修するということである。もっとゆっくりこの課題に取り組みたい生徒は、3時間なり、4時間なりを国語に当ててもよい。生徒向けガイダンスでは、プリントにより、その内容と規定時間数が示されるが、担当教員から、進め方や、どれくらいの時数が標準的に必要ななどの解説をし、生徒が自分自身の学習にふさわしい課題や時数を選択できるようにする。

表2 平成12年度3学期 OWN プラン課題 (平成13年1月実施)

対象	内容	必修…規定時間数以上取る	選択…取っても取らなくてもよい	規定時数
1年生	必修			
1年	①国語「21世紀を生きる自分宛に手紙を書こう」手紙の書き方の学習と実践			S 2～
1年	②社会「東南アジアを知ろう」様々な資料を活用して各自で工夫しながらプリントを仕上げる			S 3～
1年	③数学「空間図形の性質をさぐる」自分のテーマについて PC や模型を使用して解決していく			S 2～
1年	④理科「難解な立体思考をモデルで解決! (天体)」			
1・2・3年	⑤音楽「全校合唱『旅立ちの日に』の音取り」異学年で教えあい、自分のパートを歌えるように			S 2～
1年	⑥英語1「読み物・文法・発音に強くなろう!」3つの課題から一つを選んで学習			S 2～
1年	⑦英語2「ALTの先生との会話を楽しもう」習った英語をコミュニケーションの場面に生かして			S 1～
	選択			
1・2年	①社会「留学生にお話を聞く」外国のことをその国の方から直接聞き、質疑応答			0かS 1
1・2・3年	②保健・社会「臓器移植とあなた」現代の社会問題に目を向ける。VTR 視聴ののち異学年で討論			0かL 1
1・2・3年	③美術A「コンピュータグラフィックに挑戦」フォトショップを使ってCDジャケット制作			0かL 1
1・2・3年	④美術B「コンピュータでアニメを描く」GIFアニメーションという方法で動画を制作			0かL 1
1・3年	⑤家庭科「ロックミシンで作品制作」ロックミシンの技術を身につける			S 0～L 1
2年生	必修			
2年	①国語「意見文を書く」情報収集力と選択力、論理的思考力と表現力を身につける			S 5～
2年	②社会「日本の地理(東北北海道地方)」様々な資料を使って各自の課題に取り組む			S 5～
2年	③数学「1・2年数学の理解を深めよう」問題集とわからないところ深めたいところの個別指導			S 5～
1・2・3年	④音楽「全校合唱『旅立ちの日に』学年課題曲の音取り」自分のパートを歌えるように			S 4～
2年	⑤英語「What can we do to protect the Earth?」環境問題に関する読み物と自分の改善策英作			S 2～
	選択			
2・3年	①理科2「復習シリーズ 電流の計算」電流の計算について初歩から応用レベルまでのプリント			S 0～3
2年	②理科3「復習シリーズ 化学反応式」化学変化を自由自在に組み立てる為のレベル別プリント			S 0～3
1・2年	③社会「留学生にお話を聞く」外国のことをその国の方から直接聞き、質疑応答			0かS 1
1・2・3年	④保健・社会「臓器移植とあなた」現代の社会問題に目を向ける。VTR 視聴ののち異学年で討論			0かL 1
1・2・3年	⑤美術A「コンピュータグラフィックに挑戦」フォトショップを使ってCDジャケット制作			0かL 1
1・2・3年	⑥美術B「コンピュータでアニメを描く」GIFアニメーションという方法で動画を制作			+S 1～
2・3年	⑦体育「スポーツイベントをつくろう」いつもと違うメンバーでスポーツのマネジメントを学ぶ			0～L 3
3年生	必修			
3年	①国語「『故郷』を読む」3つの課題について自分の解釈をまとめ、「読みの視点」を学習			S 4～
1・2・3年	②保健・社会「臓器移植を考える」現代の社会問題に目を向ける。VTR 視聴ののち異学年で討論			L 1
3年	③数学「数学力を貯えよう」冬休みからの課題の問題集をやり尽くし実力を伸ばす			S 6～
3年	④理科「エネルギーを考えよう」エネルギー変換の原理を学び身の回りの具体例からまとめる			L 1～
3年	⑤英語「英作文」英作文の作り方解説と練習。3年間の復習をかねる			S 2～
2・3年	⑥体育「スポーツイベントをつくろう」スポーツのマネジメントを統合してミニイベントを行う			L 1～4
	選択			
3年	①国語「基礎講座『古典』」主に歴史的仮名遣いの読み方現代語訳のコツを学習			0かS 2～
3年	②国語「基礎講座『課題作文』」受験課題になっている課題作文についての注意点など			0かS 2～
3年	③数学「超：基礎数学」少人数でごく基本的なことを復習する6つの講座 数と式、関数、など			S 0～
3年	④理科1「復習をしよう」中学校理科の苦手単元を復習する			0かS 2～
2・3年	⑤理科2「復習シリーズ 電流の計算」演習 初歩から応用レベルまでのプリントを選択			0～S 3
3年	⑥英語「長文読解」教科書ではやれない長文読解の練習をする			0～S 3
1・3年	⑦家庭科「ロックミシンで作品制作」ロックミシンの技術を身につける			0～S 4
1・2・3年	⑧美術A「コンピュータグラフィックに挑戦」フォトショップでCDジャケットを制作			0かL 1
1・2・3年	⑨美術B「コンピュータでアニメを描く」GIFアニメーションという方法で動画を制作			+S 1～
3年	⑩☆「自由課題」OWN 課題の進捗調整や受験勉強に使うなど自分で課題を決定して進める			0～2?

「選択」の課題は、取っても取らなくてもよい。たとえば、表2の3年生の選択数学では、「超：基礎数学」が開設されているが、「S 0～」と示され、取りたいものは、S (40分) 単位で、何時間でも取ってよいということである。また、全学年対象の美術AとBは「0かL 1+S 1～」と示され、これを取るものは、必ず、L (80分) 単位で1回取ったあとSを1

以上取る。これら「選択」の課題は、自分の興味関心や、必要に応じて、いくつ取ってもよいし、逆に、「必修」の課題に十分時間をかけたいものは、全く取らなくてもかまわない。

学習展開の形式から見ると課題のスタイルは次のような例が考えられる。

「テーマ」：数時間単位の中で生徒たちのペースや計画に沿って学習を進めるスタイル
 「トピック」：1～2時間単位で読み切りふうに、履修の順序性を問わないスタイル
 「シリーズ」：①の課題を履修したら②の課題というように、学習課題を順番に進めていく
 「ポイントレッスン」：基礎基本の定着や内容の補充のためポイントをしばって学習課題設定
 「ドリル」：補充的な学習課題などで、主に個人の自学習で技能定着を図るスタイル

(3) 時間割作成の要領

表3は、平成12年度3学期の2年生の学習計画表の一部である。生徒たちはガイダンスで示された課題を検討し、各教科の課題にかける時数や履修順を考えていく。

表中あらかじめ教科名と担当が入っている時間は、普段のように、クラス単位の授業である。2年M組の生徒は、木曜の2時間目と金曜の3, 4, 5, 6時間目をクラスで共通に履修することが決まっている。それ以外の空欄を下段に示した教科から選択して記入する。それぞれ、最低時間数を確保し、自分に必要な時間を予測してとる。選択の教科などについては、取るかどうかを決めてその示された時間や条件に合うように入れる。2年M組Aさんの場合、木曜の1限に選択理科②、3, 4限に選択美術を取り、5限, 6限は社会、音楽というように選択している。下段で、1・2・3年と示されている保健社会や美術、情報や、1・2年と示されている体育、理科②などは他の学年と一緒に学ぶものである。

(4) 調整と実施

生徒は「学習計画表(=自分の時間割表)」を提出し、これを担当者が整理して各時間ごとの履修人数表を掲示する。その際、ある時間に履修希望人数が集中し、座席や、教材の確保が出来なくなる場合が生じる。担当者からは、同じ課題の開講されている別の時間に移動するよう呼びかけがある。生徒はこの人数一覧を見て、事前に履修希望を調整する。

また、2週間の実施の時には課題のすすみ具合に応じて期間中に計画の修正ができる。平成11年度より、OWN期間の中日に時間割変更などの調整のための時間をとることを試行している。

表3 OWN 学習計画表 Aさんの場合

	1/18 木						1/19 金					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
2年 M組	理②	英鈴	美	美	社	音	英	理②	技石	技石	総自主	カリ研究
2年 R組	英鈴										総自主	カリ研究
2年 K組			英鈴								総自主	カリ研究
2年 U組				英鈴							総自主	カリ研究

2年必	国	○	○			○	○					
2年必	社			A	A	A	A	A	A	A		
2年必	数	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
1・2年必	音	○	○				○					
2年必	英						○	○	○	○		
1・2・3年選	保社			○								
1・2・3年選	美			○	○	○	○					
2・3年選	体		○		○		○		○		○	
2・3年選	理②	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
2年選	理③											

(5) OWN 期間の学習への教師の関わり方

学習の展開には、生徒が教師の助言や支援を得ながら自分のペースで学習を進めるスタイルと、学習の展開を教師側がリードしつつ少人数の利点を生かして学習を展開するスタイル等が見られる。

進度の違う生徒が作業や学習をうまく進められるようなワークシートの工夫、少人数を生かした討論、コンピュータ室や図書室の資料の活用を促す、外部講師との TT 授業、グループ活動をサポートする、など、積極的にいろいろな方法を試みている。

(6) 学習室

普段はホームルームとしている教室と特別教室を利用し、教科ごとに固定して教科教室型で展開した。

(7) OWN プランのマネージメント

OWN 担当教員（平成12年度までは、研究推進委員と研究グループの担当者）と教科担任、学級担任の関わりを簡単にあげておきたい。

1) OWN 期間の参加教科と課題の調整…担当教員・参加教科担任（4～3週間前）

課題の内容、最低時間数、課題のスタイルの希望などを出し合い、生徒が自由に履修できる時間数を確認したり、履修する際の拘束の多い課題が重なっていないかなどを調整する。（拘束：ひとクラス人数の上限や、シリーズ型で①は何日と何日だけ②は何日と

何日等と開講日時が限定されるなど)

2) OWN 期間の時間割 (学習計画表) 作成…担当教員 (3週間前)

普段の時間割表から, OWN 参加教科を抜く。使用教室や, 他学年の授業や, 各クラスに対して課題の選択の条件が偏らないように, また, 各時間に OWN を選択できるクラスの数に対して選べる課題の数が十分設定できるように調整をする。

3) 生徒向けガイダンス資料作成…担当教員と参加教科

4) 生徒向けガイダンス…担当教員と担任 (約10日前)

朝礼, 終礼, 20分総合などを使う。「参加教科・課題一覧」配布

5) 学習計画表回収, パソコン入力…担当教員と担任, 副担任など (約1週間前)

生徒が記入した個人個人の学習計画表 (資料1) から, 入力をする。12年度は, 2年生で生徒による入力も試行した。

6) 人数調整…担当教員 (約1週間前)

第1次集計結果を張り出す, プリントするなどして, 人数の多い時間から少ない時間への移動を促す。同時に, 個人の学習計画表を一度生徒に返し, 生徒が入力ミスがないかのチェックも行う。学習計画表の回収。必要があれば2次調整を呼びかける。

7) 履修一覧表作成, 教員への配布, 教室への掲示…担当教員

授業の出席表にもなる, クラス別に生徒全員の履修一覧表を作成する。(資料2参照)

8) 生徒の活動支援…担任

直前ガイダンス (資料3) や毎日の自己評価「明日に向けて」(資料4) の記入指導。

9) 履修開始後の計画の修正受付…担任指導, 副担任受付

OWN 期間の約半分の日程を経過した頃に設ける調整日に, 生徒の変更希望を受け付ける。

担任は生徒の「確認調整シート」(資料5) 記入を支援する。その際, 変更先の教科担任の受け入れ許可を得て, 次に変更前の教科担任にも許可を得たものに関して受け付け, 履修一覧表に訂正を加える。

10) 事後評価項目の設定, 実施…担当教員

生徒向け, 教員向けにアンケートを実施する。

資料4 個人評価「明日に向けて」

私がつくる時間割「明日に向けて」

目標		観点別評価						一日の感想や反省	明日に向けて	先生のサイン
	1	2	3	4	5	6	観点別評価 ① ② ③			
1/17(水)										
1/18(木)										
1/19(金)				総評		総評				
1/22(月)										
1/23(火)				総評		総評				
1/24(水)	調整									
1/25(木)										
1/26(金)				総評		総評				
1/27(土)										
1/29(月)										
1/30(火)				総評		総評				

教科	担当	学習課題	必・選	時間
国語	宗・上	「故郷」を読む	必	4以上
社会・保健	坂・山	臓器移植を考える	必	L1以上
数学	田・秋	数学力を貯えよう	必	6以上
理科	佐藤	エネルギーを考えよう	必	L1以上
英語	西平	英作文	必	2以上
体育		スポーツイベントをつくろう	必	L1～L4
選択国語		基礎講座「古典」「課題作文」	選	0 or 2以上
選択数学	田口	「超」基礎数学	選	0～
選択理科①	佐藤	復習をしよう	選	0 or 2以上
選択理科②	佐藤	復習シリーズ「電流の計算」	選	0～3
選択英語	西平	長文読解	選	0～3
選択家庭	栗原	ロックミシンで作品製作	選	0～4
選択美術	小泉	コンピュータグラフィックに挑戦	選	0 or L1以上

観点別評価
観点：①時間割を意識して行動できたか（チャイム着席・持ち物など） ②自分の計画通りに進められたか。 ③自分にとって満足できる学習であったか。
評価：A とてもよくできた B まあまあできた C あまりできていなかった

3年 組 番 氏名

資料5 確認調整シート

OWN 学習計画の確認・調整シート

3年 組 番 氏名

今日は、これまでの学習を振り返って、予定の学習ができているか、課題が進んでいるかなど、自分自身のOWNプランの進み具合をチェックします。確実に点検、確認をして必要に応じて修正を加え、後半のOWNの学習を充実させましょう。

1. これまでの学習・これからの学習

自分の立てた計画に対して、各教科の課題の達成度はどうでしょうか、次のA、Bどちらかに答え、今後の計画を修正する必要の有無を○、または×で書きなさい。

A…計画通り進んでいる。 → 工夫したことがあれば書きなさい。

B…計画通りには進んでいない → 考えられる原因を書きなさい。

教科名	A or B	工夫 or 原因	実施時間	残り時間	修正有無
国語					
社・保					
数学					

III OWNプランの課題と支援、評価のあり方についての検討

1. 実践した学習課題の分析

「自分にとって意味ある学び」を創り出すために、学習課題をどのような内容・スタイルで設定したらよいか、またそこには、どのような教師の支援が必要かつ効果的であるか、をこれまでの実践をもとに、学習課題の内容と支援の仕方について検討した。

今年度のような回数で行われるようになった1999年度からの各教科の学習課題の「履修方法」「スタイル」「内容」に着目して分類してみた(表4)。学年があがるにつれて履修する課題がふえており、選択課題も数も多くなる。課題のスタイルも学年を追って、ポイントレッスン、ドリルなどに広がっている。同じ学年でも前期と後期を比較すると、後期は、選択課題がふえ、より選択の幅が広がっている事がわかる。(内容の詳細は公開研究発表会紀要参照)。

年度内での選択幅の拡大と、学年があがることによる選択幅の拡大は、学習の積み重ねにより、自分の学びを計画的に選択し実施する力が付いてくることを想定している。3学期には、異学年で課題を設定でき、内容の組み合わせの自由度がより広がっている。

表4 学年と時期による履修課題の分類表 1999と2000年前期の実践より

		履修方法		課題のスタイル					課題の内容		
		必修	選択	テーマ	トピック	シリーズ	ポイント	ドリル	基礎	発展	補充
99 前期	1年	4	1	4	1				4	3	
	2年	3	3	3	2	1			2	4	
	3年	7	9	6	3	4	2	2	7	6	3
99 後期	1年	4	8	2	7	2		1	2	10	1
	2年	4	8	3	6	1	3	2	2	9	1
	3年	6	10	3	6	1	5	3	4	9	4
00 前期	1年	7	2	4	3	2			6	4	1
	2年	6	2	4	2		1	2	4	4	1
	3年	5	7	4	4	1	3		5	4	3
00 後期	1年	7	5	7	3		1	2	5	7	1
	2年	5	7	5	3		1	4	3	8	3
	3年	6	10	4	2	1	6	6	3	6	7

* 「スタイル」と「内容」は1つの課題が複数に分類されているものもある。

12年度は、これまでの実践を生かして、「自分にとって意味ある学び」を創り出すために、個々の生徒に応じた多様な内容の課題を設定したり、同じ課題でも、生徒一人一人が自分にあった時間数を選び段階を追って学習課題に取り組めるようにしたり、また進度の違いを積極的に生かす、いつもと違うメンバーで交流する、トピック的に1時間完結で学ぶ、など、各教科で課題設定や支援の仕方をさらに工夫してきた。

また、異学年で設定した課題について、3年生は必修として、下級生は選択として位置づけるといった試みも行われた（保健・社会選択、体育選択・・・3年は必修、下級生は選択）。保健と社会のクロスカリキュラムも行われ、異なる教科のティームティーチングを可能にしている。

また、課題が、OWNプラン期間のみの観点から作られることなく、教科の単元や年間指導計画の中に明確に位置づくように意識して設定することを、確認した。学習の主体者である生徒にも、OWNプラン期間に取り組む学習内容が、その期間前後の日々の授業とどのように関連しているかをガイダンスするよう、つとめた。

2. OWNプランにおける支援と評価

生徒にとって、OWNプランが「意味ある学び」となるためには、学習課題の内容だけでなく、教師の関わり方、すなわち教師による支援の仕方も非常に重要な要素となってくる。加えて、生徒自身が自己評価意識を高め、自分の「必要」な学習内容を選択し、自分で進めていくことも必要である。

今年は、この、教師の支援と評価について意識的に取り組んだ。

具体的には、各教科で課題を設定する際に、どのような支援を行うかを検討し、また、授業ごとに行われる評価や、自分のOWNプラン計画と実施に関してどのような評価をしたらよい

かについて、工夫をした。実践の中から、つかんだ内容は次の点である。

(1) 生徒が課題や学習内容を選択するためのガイダンスの充実を図る

各教科の工夫によって、課題はバリエーションに富んだものになってきたが、生徒自身が、それぞれの課題の進め方や意図を理解して、自分の必要に応じた内容を時間数を決定していく必要がある。生徒へのガイダンスを充実させることを検討し、各教科で設定した課題の学習時間と進め方の目安や「OWN」ならではのメリットを、生徒向けガイダンス資料に掲載した。下に平成12年度1月実施の課題のガイダンスプリントから一部抜粋してみた。

資料6

1年国語「21世紀を生きている自分宛に手紙を書こう」必修S2～（プリント学習0.5～1下書き1～）

（中略）OWNプランではまず、手紙の書き方をプリントで各自が学習します。そのあと、20歳の自分、10年後の自分、30歳の自分の中から一つを選び、未来の自分宛に手紙を書きます。下書きができたら添削指導を受け、最後に清書して終了です。

*自分のペースで進められます。また、プリントや手紙の下書きを、時間をかけて個別に添削を受けることができます。

1年数学「空間図形の性質を探ろう」必修S2～

立体図形について自分でテーマを決めて模型やコンピュータなどを使い解決していきます。

*＜自分で進めて発見する喜びを＞自分のペースでアドバイスを受けながら進めていきます。いろいろな性質を発見してください。

1年英語2「ALTの先生との会話を楽しもう」必修S1～

既に習った英語をコミュニケーションの場面に生かし、英語で会話を楽しむのがねらいです。グループ毎に、ALTの先生との会話を行います。ALTの先生の話聞き取り、積極的に質問したり答えたりできるようになりましょう。そして何より英語での会話を楽しみましょう。

*普段のクラスとは異なり、少人数のグループでALTの先生と会話を行うことにより、各生徒が発話する機会が格段に増大します。

1・2・3年保健・社会「臓器移植とあなた」1，2年選択，3年必修L1

脳死・臓器移植問題に対して一つの判断をする場合、知識の広さや深さが求められるとともに、家族や社会システムとのつながりも意識する必要があります。L1の内、前半はVTRを視聴し、後半はそれを元にディスカッションをします。

*異学年の人との交流を通して学習できる場です。いろいろな人の意見を聞き、自分の考えを深めることができます。

2年社会「日本地理 東北地方・北海道地方」必修S5～

東北地方・北海道地方についての様々な資料を使って、課題に各自が取り組みます。後半は、課題の一つを選んでさらに調べたり討論したいと思っています。東北は、修学旅行の事前学習にもなります。

*さまざまな資料を使いますが、個人のペースにあわせて課題に取り組みます。

2, 3年選択理科2「復習シリーズ電流の計算」選択0～S3

電流の計算問題について、初歩から応用レベルまでのプリントを用意します。自分にあったレベルのものから順次取り組んでください。普段の一斉授業では十分に時間をかけられなかった人は、自分のペースで問題に取り組み、理解を定着させましょう。また、課題の基礎が理解できた人は、高校レベルや生活に関する内容の問題に取り組むことで、さらに興味を深めましょう。

*電流の計算問題を解くという課題は、理解の早さや度合いの個人差が大きいため、個別に自分のレベルにあわせて進められるOWNプランに最適です。

(2) 毎時間に自分にふさわしい内容や進め方を選ぶための支援をする

時間割が決まったあとでも各課題ごとに自分自身の進める内容を決定し選択する場面がある。そのための支援を工夫する必要がある。最初の時間に自分の実力を判定して、次からの学習内容を決定する事例と、自分で選んだ時間数に応じて学習計画を立てる事例について、工夫された配布プリントを下に抜粋した。

A 選択理科「化学反応式」「電流の計算」対象 2・3年生 選択S0時間以上

進捗やレベルに応じて選択できるようにたくさんの種類のプリントを用意し、プリントの自学習を中心とした授業である。適当な選択にならないように、この講座のシステムと学習の手順を示し、毎回の記録ができる「OWN個人記録票」を用意した。

OWN個人記録票

OWN講座のシステム

<初めて受講する人は…>

- ①この記録表とNo.0「診断シート」受け取る。
- ②「診断シート」をやる。
- ③終わったら、解答を見て、自己採点をする。
- ④自分がどこの段階から始めたらよいか判断する。

<プリントの構成（電流の計算編）>

- | | |
|---------------|---------------|
| 0. 診断シート | 5. オームの法則・演習編 |
| 1. 電流 | 6. 電力・発熱量・電力量 |
| 2. 電圧 | 7. 電流の計算・自由自在 |
| 3. オームの法則・基礎編 | 8. 電気料金の計算① |
| 4. オームの法則・応用編 | 9. 電気料金の計算② |
- ※とりあえずの目標はNo.6「電力・発熱量・電力量」です。
ここまでできるようになれば、中学生レベルで十分です。

< 中 目 各 >

<進め方>

- ①自分のレベルにあったプリントを読んで問題を解く。
- ②解答のプリントを受け取り、自己採点をする。
- ③間違えたところを分析して、直す。
- ④完全にできたら、次のプリントをもらう（①に戻る）

<授業が終わったら>

- ①この時間にやったプリントをまとめる。
- ②個人票にその時間にやったプリントの番号、この時間にできたこと、感想を書いて提出する。
- ③解答のプリントを返却する。
- ④自分が解いたプリントは、持ち帰って結構です。なお、プリントが途中で後日また受講する人は、忘れずに次回もってきてください。

B 選択美術 対象1・2・3年生 選択S 0時間以上

画像処理ソフトを使ってコンピュータグラフィックでCDジャケットをデザインする課題と、GIFアニメーションのソフト(Lake Clear)を使って動画を制作する課題が用意されている。美術を選択した生徒の時間数に応じて、できることに限りがあるので、そのインフォメーションをし、自分の計画を立てる「PLANNING PAPER」を用意した。

OWN PLAN 2001 美術科課題 PLANNING PAPER		
【CDジャケットの制作とGIFアニメーションに挑戦】		
年 組 () 氏名 _____		
*今回のOWN PLANでは画像処理ソフト(フォトショップ)を使って、コンピュータグラフィックでCDジャケットをデザインしたり、GIFアニメーションのソフト(Lake Clear)を使って動画を制作します。0時間からの選択制授業なので人によって履修している時間が異なります。まずはじめに各自の履修時間で何を学習していくのがしっかりと計画を立てるところからはじめましょう。		
【履修時間による学習課題について】		
*2時間以内履修の人		
・画像処理ソフト:フォトショップを使いこなす。		
・CDジャケットのデザインの出来るところまで。(フロッピーに保存)		
*~5時間まで履修した人		
Aコース	・画像処理ソフト:フォトショップを使いこなす。	
	・CDジャケットのデザインと作品制作(カラー印刷まで)	
Bコース	・GIFアニメーションソフト: Lake Clearの使い方を学び、使いこなせるようにする。	
	・動画の作品制作。(フロッピーに保存)	
*~7時間まで履修した人		
Cコース	・AコースとBコースの出来るところまで。	
*7時間以上履修の人		
Dコース	・AコースとBコースの両方を完成させる。	
【学習計画】各自の履修時間に応じて計画を立てる		
時間	課コース	学習計画・学習内容
1		・画像処理ソフト:フォトショップを使いこなす。
2		・CDジャケットのデザインまで。(フロッピーに保存まで)
3		
4		
5		

(3) 生徒達にその学習課題の出口、すなわち到達点をはっきりと示す

どのような学習なのか、課題内容はわかっていても、どこまでやればその学習課題を成し遂げたことになるのかははっきりしなければ、生徒は学習を進めていくことがなかなかできないし、また自分自身で見通しを立てて課題に取り組むことも困難である。「ここまでやればいい」という教師側の助言や指示が重要である。また、生徒自身がどこまでできたのか、満足できる内容なのかなどを学習の途中で自己評価できることも大切である。

(4) 進度の違う生徒達が作業や学習を関わり合って進められる教材やワークシートの工夫

特に、プリントなどを使って生徒が自主的に課題を進めていくという学習スタイルをとる場合、学習の自立推進の力が弱い生徒に対する教師側の働きかけや対応が重要であるとともに、同じ場所で学習している生徒たちの進度やペースが違うということをむしろプラスに生かして、生徒同士が教え合ったり資料や道具等を融通し合ったりするなど、生徒間での協力を促すことも効果的である。そのとき一緒になった友達からコメントをもらい評価につながる事例と、そのときのメンバーでグループを組み活動することを促すようにカードに示した事例から抜粋した。

C 国語「意見文を書く」1年生対象 S必修5時間以上

5時間分の時間の進め方を示したシートが示される。その計画に基づいたワークシートに作文を書きながら、下書きのシートには「学友のサイン」、清書のシートには「学友のコメントとサイン」「私の評価と反省・コメント」欄を設け、生徒同士の学び合いを促すようにしている。

へ清書用 ▽	① 学友三人の コメントとサイン ① 二年 組()	② 二年 組()	③ 二年 組()	2. 私の評価と反省 A よくできた B まあまあかな C 努力不足だ へ反省コメント▽

D 体育「スポーツイベントを作ろう」

OWNの前までの授業で学んだスポーツマネジメントを、毎回メンバーの替わるOWNの場面ではどのようにすると良いのかを学ぶ課題である。異学年でそれぞれ違うスポーツを希望しているメンバーがその日の条件を確認してからどのように種目やグループを確定していくかの流れを、通常の授業から続けて使える学習ノートに示した。

1月17日から1月30日 OWN期間	
I 目的	みんなが楽しめるイベントにしよう!
II 内容	①全員ピロティーに集合、出欠確認、本日の開催条件の確認 ②各自の種目を選択、調整 ③各種目毎グループ作り ④グループ毎にキャプテンを選出 ⑤各種目毎のキャプテン集合(全体的な運営について話し合う) ⑥グループ内で本時の計画立案 ⑦活動開始(用具の準備やウオームアップをしっかり行おう。必要があれば休憩を取ろう。) ⑧終了(授業終了時刻10分前には、活動をやめ、用具の片づけ、個人カードを必ず記入しよう。) ⑨キャプテンは個人カードを集め、提出する。
種目と場所	①バスケ②バレー③サッカー④タッチフット⑤ソフト⑥柔道⑦バドミ⑧テニス アリーナ・①②⑦ 中グラ・②⑦⑧ 武道場・⑥ 大グラ・③④⑤

OWN 1回目	本日の条件	使用可能場所 その他の条件	{アリーナ・大グラ・中グラ・武道場}
チームの目標			キャプテン氏名
チームで計画した練習内容		ゲーム 1ゲームの時間、簡単なルールなど	
		今日の対戦と結果	
評価	①活動全体は楽しくできたか	A B C D	
	②マネージメント活動にどれくらい自分が貢献したか	A B C D	
	③特によくマネージメント活動を頑張った人 氏名		
	理由 {チーム作り、ルール作り、練習計画提案、用具準備、他チームとの調整、練習進行、片づけ、安全管理 etc}		

(5) 普段のクラスでの授業と比較して少人数であることを生かす

普段の授業ではなかなか個々の生徒に応じて対応することが難しいのが実状である。しかし、OWNプランの学習場面では、教師は生徒一人一人の必要に応じて適切な助言や指示を与えることができる。また学習者である生徒の方でも、普段の授業と比べ、OWNプランでは自分が必要とするときにじっくり教師側に疑問を尋ねたり、話をしたりできるという利点に気づき、それを積極的に活用しようとする姿も多く見られるようになった。さらに、OWNプランによる学習は個別学習の形で進むことが多いが、個々に進めるOWNプランだからこそ、教師がさまざまな生徒達の学習をコーディネートし、交流学习や討論、発表学習などを設定することも大切である。例えば、社会科での討論（ディスカッション）や家庭科での調べ学習の発表や調理実習の試食後の感想発表といった学習スタイルも、適切な人数設定が可能なOWNプランならではの利点を生かして効果を上げている。

(6) 自分の学びを振り返り見直しを持つため、記録の時間を設ける

今年度は、帰りの会で行う生徒の自己評価「明日に向けて」というカードを全学年形式をそろえて作成することにした（前述P114資料4参照）。期間の始まる前に自分の時間割を記入しておき、毎日の帰りの会で確認しながら自己評価する。評価の観点は、①時間割を意識して行動できたか②自分の計画通りに進められたか③自分にとって満足できる学習であったかの3点と、感想反省、明日に向けての自由記述である。2、3年生は、期間の途中で自分の課題を振り返り計画を修正する時間を設けるが、その際にも利用できた。

(7) 履修の変更を上手く利用できるようにする

OWNプラン開始当初は、期間中も課題の進み具合に応じて随時履修の変更が可能であったが、その後、様々な問題が生ずるようになったので、随時の履修変更は認めず、計画をしっかり立てて確実に実行させるようにした。その代わりに、平成11年度から、OWN期間の約半分

の日程を経過した時点で進度調整日を設定し、学習状況、達成度、充実度などを考慮し、計画を再構成させる時間とした。「確認・調整シート」を工夫した(前述P116資料5参照)。

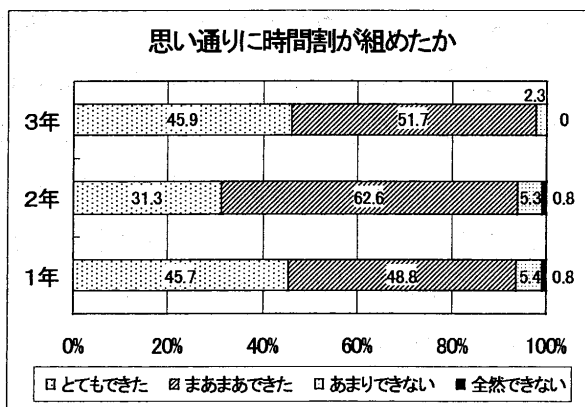
IV 平成12年度3学期OWNプランの評価

全学年一斉にOWNを試行した3学期(平成13年1月)のアンケート調査を例に考察したい。

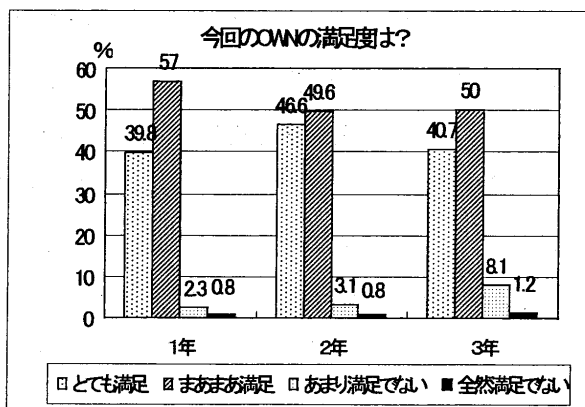
1. OWNの満足度

「思い通りに自分の時間割が組めたか」という質問に対して、9割以上の生徒が、とてもできた、まあまあできたと答えた。また、OWNの満足度についても各学年ともに、9割以上の生徒が、満足している。年度を重ねて、課題の量と質、支援、このプランのマネジメントなどが上手くなり、生徒にとって、満足度の高いプランになってきたといえる。

グラフ1

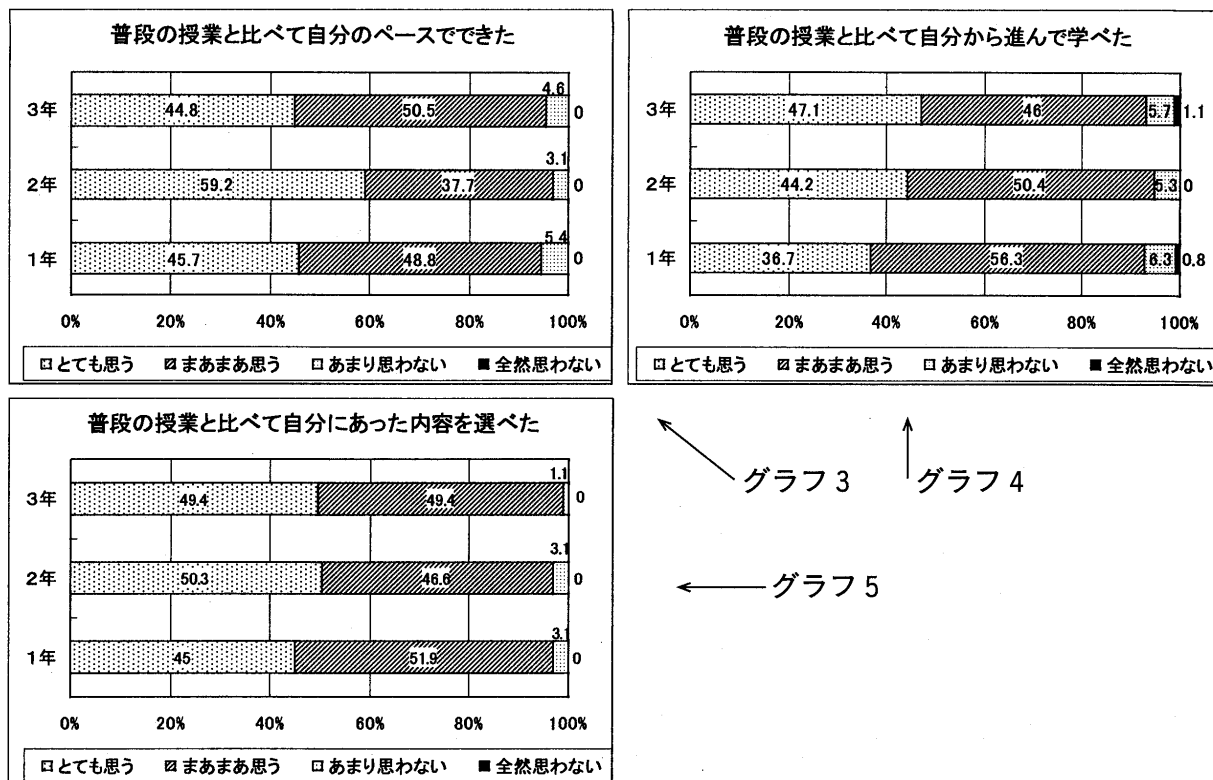


グラフ2



2. 自分にとって「意味ある学び」であったか

この項目も、毎回の実践ごとに調査を重ねているが、今回も、「普通の授業」に比べて、「自分のペースで」「自分から進んで」「自分にあった内容を選んで」学べた様子がわかる。95%前後の生徒がそう思うと答えている。OWNの期間には、多くの教員が授業に出ているので、空き時間がほとんどない状態であるが、保健室で過ごす生徒がグンと減る(養護教諭談)、という状況が報告されている。また、授業の開始時にその授業の教室で、準備を完了して待つ姿が、普通の授業よりも多く見られるという報告もある。「自分の時間割や学ぶ内容を自分で選択すること」が生徒の姿勢を前向きにしていると感じる。



3. OWNプランの課題に対する評価

OWNで学んだ教科の課題それぞれについて「学んで良かったですか?」という調査をした。どの教科、課題に対しても、多くが肯定的であった。特に「とても思う」という回答が、5割を超えた課題は下の通りである。

- 3年：必修社会保健「臓器移植とあなた」、必修英語「英作文の作り方解説と練習」、必修体育「スポーツイベントを作ろう」、選択理科①「中学校理科の苦手単元を復習」、選択英語「長文読解、教科書でやれない長文」、選択家庭科「ロックミシンで作成制作」、選択美術「コンピュータグラフィック、アニメーション」
- 2年：選択理科②「復習シリーズ電流の計算」、選択保健社会「臓器移植とあなた」、選択美術「コンピュータグラフィック、アニメーション」、選択体育「スポーツイベントを作ろう」
- 1年：必修音楽「全校合唱の音取り」、選択社会「留学生にお話を聞く」、選択保健社会「臓器移植とあなた」、選択美術「コンピュータグラフィック」

「OWNプランだから良かった課題」を、3つまで選択させ、その理由をA～Fで調査した結果が、表6である。1年の国語、社会、2年の国語、数学、3年の国語、数学、1、2、3年の選択美術などは、「かける時間数を選べる」「その時間中に自分のペースでできる」が、多く選ばれている。これらは、レポートを作成したり、文章や、作品を創作したり、問題をといていく。

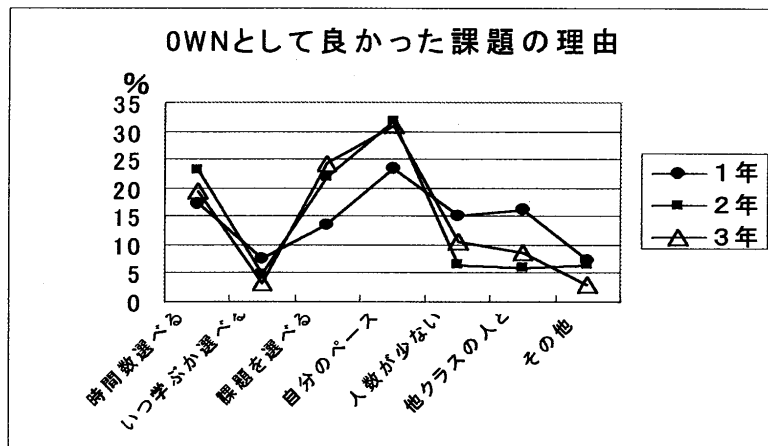
表5 課題は、学んで良かったですか

3年	とても	まあ	あまり	全然	2年	とても	まあ	あまり	全然	1年	とても	まあ	あまり	全然
国語	33.3	52.9	11.5	2.3	国語	48.5	43.9	6.1	1.5	国語	32.8	53.9	9.4	3.9
社・保	76.2	21.4	2.4	0	社会	43.2	53	3.8	0	社会	48.8	43.3	6.2	1.6
数学	37.2	51.2	10.5	1.2	数学	41.2	43.5	14.5	0.8	数学	32.8	53.9	8.6	3.9
理科	34.5	53.6	10.7	1.2	音楽	33.3	46.2	18.2	2.3	理科	43.6	49.2	6.3	0.8
英語	55.1	39.1	4.6	1.1	英語	43.5	48.1	8.4	0	音楽	53.5	36.4	9.3	0.8
体育	57.6	32.9	7.1	2.4	選理②	68	28.7	2.5	0.8	英語①	38	48.1	11.6	2.3
選国語	25.8	56.5	12.9	4.8	選理③	70	23.9	4.3	1.7	英語②	38.4	49.6	11.2	0.8
選数学	37.5	45.8	12.5	4.2	選社会	30.6	55.6	13.9	0	選社会	51.2	41.5	7.3	0
選理①	62.5	33.9	0	3.6	選保社	70.2	24.6	3.5	1.8	選保社	81.1	17	1.9	0
選理②	25	57.1	10.7	7.1	選美A	48	42.7	6.7	2.7	選美A	60.7	34.8	4.5	0
選英語	52.9	38.2	5.9	2.9	選美B	57.4	34	4.3	4.3	選美B	54.5	45.5	0	0
選家庭	50	28.6	7.1	14.3	選体育	71.3	25.9	1.9	0.9	選家庭	43.5	40.6	14.5	1.4
選美術	62.5	30.4	5.4	1.8										

表6 OWN だからよかったという課題の理由

1年	A	B	C	D	E	F	G	2年	A	B	C	D	E	F	G	3年	A	B	C	D	E	F	G
国語	14	2	3	11	3	4	4	国語	17	3	6	14	1	1	0	国語	6	0	1	12	0	1	0
社会	20	8	18	25	1	4	0	社会	9	2	6	13	0	1	0	社保	0	2	0	1	11	9	7
数学	7	4	9	18	4	2	2	数学	4	2	6	11	0	0	0	数学	12	2	12	18	1	1	0
理科	1	0	0	2	16	7	0	音楽	0	0	9	2	1	1	1	理科	4	0	3	4	0	0	0
音楽	10	3	2	5	3	22	7	英語	1	0	0	2	1	0	1	英語	5	3	7	14	2	0	0
英①	8	3	9	13	4	2	0	選理②	4	0	0	9	2	1	3	体育	12	2	11	8	4	14	1
英②	0	3	1	2	16	3	2	選理③	0	0	8	1	0	0	0	選国	0	0	1	3	0	0	0
選社	0	0	0	0	1	0	4	選社	1	0	0	0	0	0	0	選数	0	0	3	2	4	0	0
選保社	0	2	1	0	1	9	7	選保	0	0	0	0	4	3	4	選理①	7	0	12	11	4	0	0
選美A	2	1	4	8	1	4	0	選美A	4	1	1	3	0	0	1	選理②	0	0	3	1	0	0	0
選美B	0	0	1	0	0	1	0	選美B	1	0	4	3	0	0	0	選英	4	0	16	12	1	0	0
選家	1	2	1	2	5	1	1	選体	3	1	1	2	3	4	2	選家	2	0	0	1	2	0	1
合計	63	28	49	86	55	59	27	合計	44	9	41	60	12	11	12	選美	9	1	7	10	4	2	0
																合計	61	10	76	97	33	27	9

グラフ6



理由

- A かける時間数を選べる
- B いつ学ぶか選べる
- C その時間中に自分にあった問題や好きな内容などを選べる
- D その時間中に自分のペースでできる
- E 1クラスの人数が少ない
- F 他のクラスの人と学べる
- G その他

というような個人の調べ学習や作業と中心とした課題である。普段、必修授業の中では、教師の決めた時間数で進めていくような内容でも、自分のペースや時間に合わせて進められ、適宜指導を受けたり友人と交流していくことができる OWN の良さを意識していると、考えられる。選択体育のように、時間ごとに集まったメンバーの興味関心を生かして、その都度企画するようなスポーツイベントを作る授業では、「その時間中に自分にあった問題や好きな内容などを選べること」や、「他クラスの人と学べる」良さを感じたものが多い。1年理科の立体モデルを使った天体の学習や、英語②の ALT の先生と話す授業では、「人数が少ないこと」の良さを生かした授業であったことがわかる。

学年別に合計したものをグラフ化して、そのプロフィールを見ると、どの学年も似たような形である。多少、上級生の方が、「自分のペース」「自分にあった問題」が突出しており、課題内容も、意識の上でも、「自立」した学習が行われていくようになるのではないかと推測できる(グラフ6)。

V おわりに…新しい選択の在り方を求めて

教わりに行く学校から自ら「意味ある学び」を作り出す学校へ

OWN プランは、「教わりに行く学校」から、生徒の「主体的な学びを育てる」学校へと学校像を転換していくことを目指して履修方法の面からアプローチしたものである。4年間継続して実践研究してきたこのプランの中で、生徒は、いつもの時間割の時よりも、自分のペースで、自分にあった内容を選択して、自分から進んで学習に取り組んでいることがわかった。

今年は、生徒の「主体的な学び」を育てるために、どのような「課題の設定と支援」が必要なのかどのような「評価」が大切なのかについて、実践の中で検討してきた。

- ① 課題は、様々な内容とスタイルが試行され、どうしたら生徒の主体的な学びを促すのかという観点から工夫され、各教科の年間のカリキュラムの中に位置づくようになりつつある。また、生徒自身が、OWN 期間前のガイダンスを受けることで、あらかじめ、ふだんの授業との関連と、課題達成への見通しをもって自分で学習を進める、という良さが明らかになってきた。一方、同じ OWN 期間に生徒に示される課題は、全体としてうまく運ぶように、あらかじめ参加教科間で調整する必要が指摘された。
- ② 教師の支援は、学習の到達点を示すこと、進度の違いに対応した教材やワークシートの工夫が大切であることが明らかになり、実践がつみ重ねられてきた。さらに、家庭で一人で学習するのではなく、学校で学ぶものであるという点に着目し、学習者同士の学び合いをいかすように、教師がコーディネートすることの重要性と、それが OWN プランの中で効果的に機能する実践が試みられた。
- ③ 評価の面では、学習が自分にとって意味ある学びとなるよう、自己評価力の育成が大事

であると考え、学習を確認する評価の工夫を行った。また、継続的に行っている OWN 期間後のアンケートから、学習者の期待と、課題に対する評価を読みとり、次の実践へと生かすことができるようになってきている。残る課題は「評定」である。必修の課題については、通常の評定の中に組み込まれていくが、選択の課題については、その扱いはまだ検討中である。

新学習指導要領の実施をふまえて

① 新しい「選択」のあり方を求めて

新学習指導要領では、「選択教科」について、現行の内容よりも範囲を広げ、「発展」的内容だけでなく「補充」的な内容にも目を向けるように提案している。また、選択教科は、長期間継続的にひとつのことを学ばなくてはならないという制約はない。本校で OWN 期間に設定している「選択」では、普段の授業では実現しにくい発展的な内容も、ポイントレッスンやドリルで行う補充的な内容も実践している。また、必修の課題であっても、生徒が取り上げるテーマや学び方を選択したり、同じ課題の追求に対してかける時間数を選択できる、というような、個に応じた「選択」を実現している。年間を通じて同じメンバーで長くひとつの教科を選択するような積み重ねはできないが、そのときの一人一人の必要や興味に対応して、様々な「選択」が期待できるプランである。新しい「選択」のあり方として実践研究を深めていきたい。

② 学級編成の弾力化に対応して

指導方法・体制の改善として、学習の際に学級の枠を弾力的に扱う提言が出されたが、まさに、OWN プランはそのひとつのスタイルの提案になる。学級だけでなく学年の枠を取り払った学習集団の設定、学校内ティームティーチングや学外講師を招いてのティームティーチングなど、通常的时间割の制限をはずしたこのプランでは、比較的自由にそのような体制が組める。

③ 施設の問題や、教師の指導時間数の増加、1クラスに希望者が集まり少人数の良さが発揮できない場合があるなど、運営上の課題が残っているが、今後、実践の中で検討を進めていきたい。

(文責 宮本乙女)